



鷹狩用の「眼套」(アラビア半島)を
着用したはく製(民族資料博物館蔵)

2025 中部大学民族資料博物館 秋季企画展

中部大学国際関係学部 創設40周年記念展

～私とフィールド、私のコクサイ

INTERNATIONAL
STUDIES
40TH
ANNIVERSARY EXHIBITION

国際関係学部の概要

ウクライナとロシア、ガザとイスラエルの戦争などをめぐる国際情勢が緊迫化する中、世界はこれまでの欧米主導型から真のグローバル化へ移行しつつあります。一方で、国内外における宗教対立に見られるように多様な文化への理解がこれまで以上に重要となっています。

中部大学国際関係学部では、文化、政治、経済、法、社会、宗教などを個別に捉えるだけでなく、これらを有機的に結び付け、世界のさまざまな地域の比較を行い、過去から現在、未来への生活と関連付けて生涯学び続ける姿勢を重視しています。多様な学問領域・地域・語学を学生個々の関心と将来設計に応じて自由に学べるカリキュラムを導入し、多岐にわたる分野の専門家で構成される教員スタッフが指導することで、複眼的な視点や多面的な思考を身につけ、国際的に通用する行動力やコミュニケーション力を備えたグローバル人材を育成しています。



中野智章
(国際関係学部長・民族資料博物館長)

学
部
長
・
館
長
ご
あい
さ
つ

GREETING

1984年に国内初の国際系学部の一つとして創設された中部大学国際関係学部は、昨年40周年を迎えました。地域や言語をはじめ文化や社会、政治や経済など多彩な学問分野を扱う中で重視しているのは現地における「フィールドワーク」で、人類学や社会学、地理学などを専門とする教員が、世界各地における調査の成果を教育や研究に反映させています。民族資料博物館にはパプアニューギニアの研究で知られる畑中幸子名誉教授の収集資料など4千点にのぼる資料が収蔵されていますが、4名の教員が語るフィールドへの想いや関連する資料を通じて国際の学びの豊かさを感じて頂ければ幸いです。

展示資料の概要

今回の企画展では、国際関係学部で教鞭を執る教員のうち文化人類学、音楽人類学、イギリス文学、エジプト考古学を専門とする4名が、それぞれのフィールドへの想いやフィールドワークの一端に関連資料を通じて紹介します。

中山紀子教授(文化人類学)はトルコ共和国西黒海地方の村で1年間にわたるフィールドワークを行い、世俗主義やイスラーム、女性の相互関係などに関する研究を進めています。展示では研究テーマの一つでもあるスカーフや、民族衣装などを紹介します。

ゾンテンティン准教授(音楽人類学)は中国の少数民族が多く集まる雲南省に残された古代漢民族の宮廷音楽などの調査・研究を行っているほか、プロの中国琵琶奏者としても活躍しており、中国やギリシャ、トルコなどの楽器、中国の民族衣装などを展示します。

伊藤裕子教授(イギリス文学)は20世紀初頭のイギリス文学や文化が専門で、モダニズム文学の作家ヴァージニア・ウルフをはじめ、当時のブルームズベリー・グループやヨーロッパ芸術の研究などを進めており、貴重な初版本などを紹介します。

中野智章教授(エジプト考古学)は古代エジプトが専門で、文明の形成に関する研究のほか、世界最古の階段ピラミッドや文明末期の神殿調査などに携わってきました。象形文字ヒエログリフの文法書や『死者の書』と呼ばれるパピルスの複製などを展示します。



トルコの民族衣装(民族資料博物館蔵)



エジプト、フウネフェルの「死者の書」(複製)(個人蔵)



(フランドル派美術批評)
“CHATTO AND WINDUS”[原著]
(ロジャー・フライ著、英1927年刊行)(個人蔵)



(小説)「FLUSH」[原著]
(ヴァージニア・ウルフ著、英1933年刊行)
(個人蔵)



ギリシャの弦楽器「ブズーキ」
1980年代製(個人蔵)

中部大学民族資料博物館

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地(附属三浦記念図書館2階)

TEL 0568-51-9193 FAX 0568-51-9194

ホームページ <https://www.chubu.ac.jp/student-life/facilities/museum/> E-mail chubu-minzoku@fsc.chubu.ac.jp

ACCESS

交通のご案内
JR中央線「神領」駅下車、
名鉄バス「中部大学前」
(約10分)下車すぐ

